

UCS-CシリーズサーバでのセキュアLDAPの設定

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[UCS Cシリーズサーバ側の設定](#)

[検証](#)

はじめに

このドキュメントでは、CシリーズサーバでSecureLDAPを設定する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco UCSおよびCIMCに関する基本的な知識。

使用するコンポーネント

- スタンドアロンモードのCisco UCS Cシリーズサーバ

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

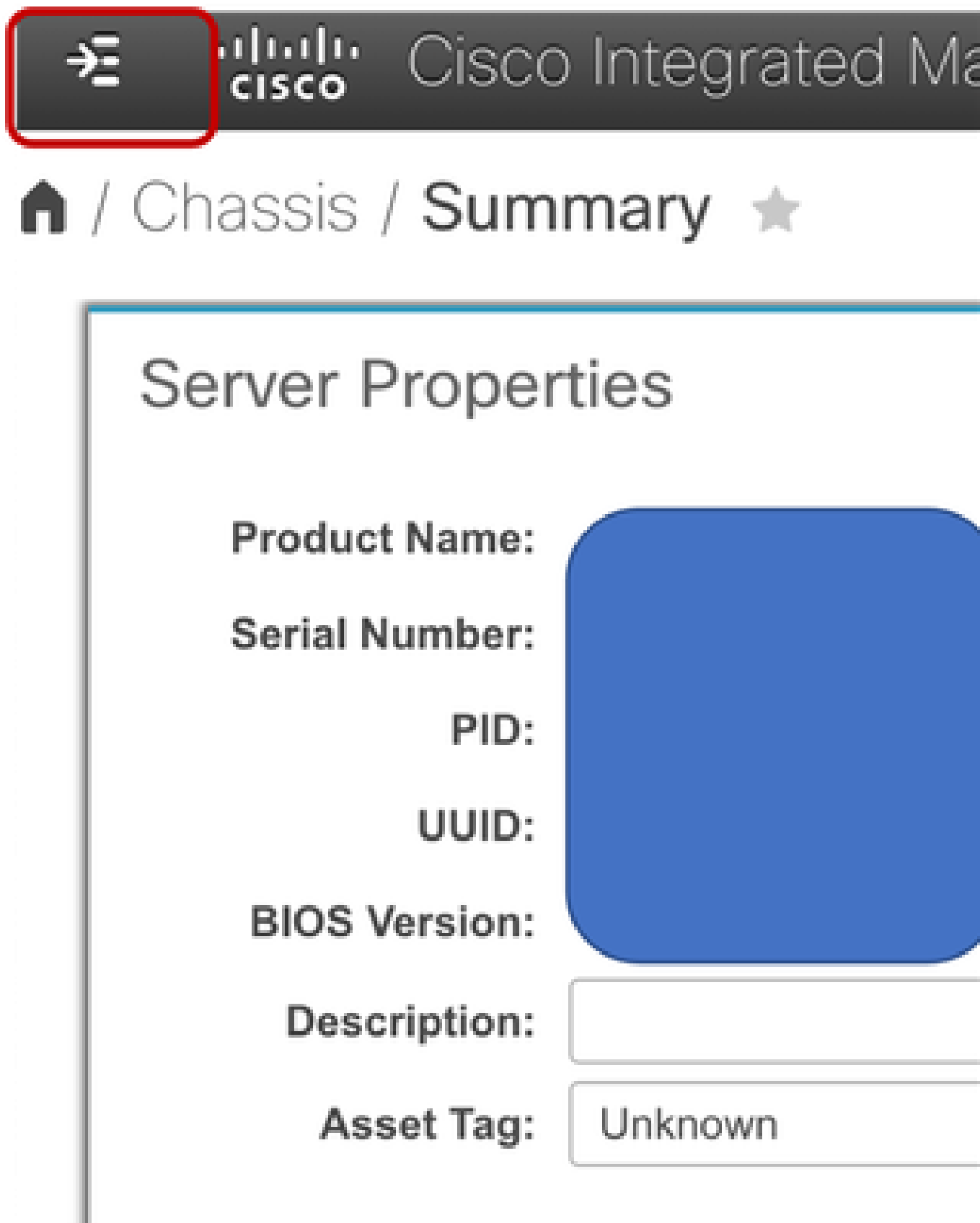
背景説明

このガイドの例では、UCS CシリーズサーバでのセキュアLDAP設定を示しています。

- DNSサーバを設定し、UCSサーバ上のIPアドレスの代わりにLDAPサーバのドメイン名を使用できるようにします。LDAPサーバとUCS Cシリーズサーバの両方のIPアドレスを指すように、適切なAレコードが設定されていることを確認します。
- LDAPサーバでWindows証明書サービスを設定し、セキュアなLDAP通信のための証明書の生成を有効にします。生成された証明書（ルートおよび中間）がUCS Cシリーズサーバにアップロードされます。

UCS Cシリーズサーバ側の設定

事前設定されたDNSサーバと対話するようにUCS Cシリーズサーバを設定するには、UCSサーバのCIMCインターフェイスにアクセスし、左上隅にあるナビゲーションアイコンをクリックします。



Adminに移動し、Networkingを選択します。

Chassis



Compute

Networking



Storage



Admin



User Management

Networking

Communication Services

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。